

# 実践記録

174

シリーズ

## 公民館お茶の間講座 (直江津地区)

上越市立公民館 小池 和美

### ◎公民館を地域のお茶の間に

公民館お茶の間講座は、平成22年度から、直江津地区と高田地区で開催している講座です。

この講座の学習目標は、「さまざまな学習活動を通して、仲間づくりを行うとともに、地域への関心を高める」としています。

上越市立公民館では、公民館事業を「青少年教育」「家庭教育」「成人教育」「まちづくり・自治」という4分野に分類し、実施していますが、公民館お茶の間講座は「まちづくり・自治」の分野に入っている講座です。

公民館では、気軽に集まれる地域のお茶の間の存在になり、住民の交流、活動を促進するための場となるために、地域のニーズに合わせたさまざまな取り組みを行っています。「公民館お茶の間講座」は、講座名に私たち職員の思いが込められた講座といえます。

### ◎仲間づくりから、自主グループ結成へ

まず、平成22年度は、直江津地区公民館(上越市カルチャーセンター)が新潟県ダーツ支部の活動拠点となっていることから、ダーツを地域住民に広め、健康づくりに役立て仲間づくりをすすめる活動を行いました。

新潟県ダーツ支部に指導をお願いし、ダーツ初心者の方が多く集まりました。「お茶の間」という言葉を付けただけで、気軽に参加できたようです。とても良い仲間づくりがすすめられ、講座終了後は「お茶の間ダーツ愛好会」というグループが発足し、現在も週1回ダーツを楽しみながら、公民館行事で地域住民にダーツを教えたりすることもあります。公民館月報5月号(No.711)のサークル交流でも紹介していますので、ご覧ください。

次に、平成23年度は、「手作りを楽しもう!」というテーマで、冬季に3回コースで計画しました。

内容は、下記のとおりです。

- 1回目…県産米粉を使ったみたらし団子、ドーナツかりんとう、ヨーグルトパンケーキを作って試食し、地産地消、食の安全について関心を高める。
- 2回目…障子紙や折り紙を使って、春の桜をイメージした手作りの掛け軸を作る。
- 3回目…旬の食材を使用した変わり巻き寿司、桜蒸しなど春のおもてなし料理を学ぶ。

以上、3回の短いコースでしたが、広報で募集すると、定員15人のところ、近隣在住の中高年の女性を中心に26人の応募があり、抽選を行いました。

開講式では、「出会いを大切にしたい。互いに積極的に声を掛け合しましょう。」とお話しさせていただき、講座の目的を理解していただきました。



米粉のおやつ3種を味わいながら歓談

講座は、1回目から、和気あいあいと賑やかにおやつ作りをすることができました。とても楽しかったからでしょうか、試食後、受講生の中でも元気のいい方が、講座終了後の自主グループ結成を呼びかけていました。「今日、初めて出会った仲間なのに!？」と、受講生の積極性に驚きました。

2回目は、創作活動でした。受講生が掛け軸を作っている間に、職員は大根餅を作り、お茶を用意しました。そして、完成した掛け軸を眺め、お茶を飲みながら自己紹介や、意見交換を行いました。

3回目は、おもてなし料理の実習でしたが、最後に試食しながら、受講生の1人が紙とペンを回し、自主グループへの参加希望者は氏名、連絡先を記入しました。そして、後日、公民館のロビーで、ストーブを囲みながら相談し、代表者と会計係を決め、学習計画を立てました。グループ名は、「さくらの会」とし、会の趣旨は「月1回公民館に集まり、料理を通して仲間づくりをすすめる」と決定。10人ほどのグループになりました。

こうして、また一つの新しいグループが結成されたことで、今後、活動の輪を広げ、発展していくことが期待されます。

### ◎おわりに

平成24年度のお茶の間講座も1期が終了し、9月から2期が始まります。今年度は上越市の重要課題である「中山間地の現状と課題」についても学んでいく内容です。

今後も、公民館の基本的役割である「学ぶ・集う・結ぶ」を合言葉にしながら、公民館に人が集まり、学び合い、活動を広げることで、公民館から地域の元気を発信していきたいです。